

昭 20		年 月 日		略 歴	摘 要	
8	8	7	7			<p>関東軍火工廠略歴 (関東軍造兵廠) 通称号 監第一五五一五部隊 満第三八三部隊</p>
20	15	30	10			
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 関東軍造兵廠第三製造所の人員をもつて遼陽において編成完結。 同日関東軍造兵廠長の隷下をはなれ関東軍補給監の隷下に入り火薬の製造業務に従事。 編成</p>						
<p>本部(遼陽) 少将 林 光 道</p> <p>第一製造所 大佐 関重永</p> <p>第一工場 第二工場 第三工場 第四工場 第五工場</p> <p>吉林出張所 修理工場 長少佐 吹野信平 長中尉 重田宗五郎</p> <p>遼陽において停戦。 同日吉林出張所吹野少佐以下本廠に復帰。 「ソ」軍により接收される。</p>						

0799

				昭 21		
				6	11	8
				7	7	6
				7	4	29
				27	17	25
				内地帰還のため主力遼陽出發。 錦州着。 同日壺蘆島着。 以降遂次乗船帰還。		
				部隊解散。		
				「ソ」軍撤兵と共に中共軍の指揮下に入り復旧作業に従事。		
				歴代部隊長		
				初代 大佐 植松 達己		
				二代 大佐 中橋 桂次郎		
				三代 少将 林 光道		

0800

		昭 14	昭 16	昭 20	昭 20	昭 31
		年	月	日	日	日
		8	5	2	3	3
		1	頃	20	1	31
<p>関東軍衛生材料廠略歴 (陸軍衛生材料廠奉天支廠) 通称号 監第一五五一部隊 満第七四三部隊</p>		<p>奉天において陸軍衛生材料廠奉天支廠(長薬劑中佐柴野金吾)創設、同日大連に出張所を設置し全満および北支に対する衛生材料、獣医資材(陸軍獣医資材廠奉天支廠設立まで)の補給ならびに製造業務に従事。 羅津に出張所設置。 吉林省下九台に集積所設置。 吉林省九台に集積所設置。 軍令陸甲第五三号により関東軍衛生材料廠に改編。 編成</p>				
<p>略 歴</p>		<p>總務部 長 薬劑中佐 南 雲 高 吉 補給部 長 薬劑大尉 松 井 敬 介 會計部 長 主 大尉 村 瀬 正 雄 会 議 部 長 薬劑大尉 藤 本 久 雄 研究部 長 兼 務 南 雲 高 吉 製造部 長 兼 務 南 雲 高 吉 警備隊 長 兼 務 南 雲 高 吉 大連出張所 長 兼 務 南 雲 高 吉 九台集積所 長 兼 務 南 雲 高 吉 下九台集積所 長 兼 務 南 雲 高 吉</p>				
<p>摘要</p>						

0801

	9	9	9	8	8	8	8	8
	16	5	9	2	30	20	16	15
	<p>部隊長</p> <p>菜劑少将 平松源一</p> <p>「注」大連出張所および羅津出張所は停戦後所在地高級指揮官の指揮下に入る。</p> <p>奉天出發、黒河經由入「ソ」。</p> <p>北陵集結。</p> <p>3 奉天鐵路学院に収容される。</p> <p>奉天において武装解除。</p> <p>下九台集積所本廠に復帰。</p> <p>同日軍属を解散。</p> <p>廠長「ソ」軍に抑留。</p> <p>九站集積所本廠に復帰。</p> <p>停戦にともない本廠主力は爾後衛生材料の「ソ」連輸送の作業に従事。</p> <p>停戦。</p>							

1080

0802

		昭 20	昭 15	年 月 日																																				
8		3	1		8																																			
13		31			1																																			
<p>関東軍獣医資材廠略歴</p> <p>(陸軍獣医資材廠奉天支廠)</p> <p>通称号 監第一五五二部隊 満第八四一部隊</p>																																								
<p>略 歴</p>																																								
<p>奉天に陸軍獣医資材廠奉天支廠設置。 同日大連に出張所を設置し獣医資材の補給および製造業務に従奉。 大石橋に出張所設置。 軍令陸甲第五三号により関東軍獣医資材廠に改編。 編成</p>																																								
<p>本廠 獣医中佐 加藤観一</p>																																								
<p>開原に出張所(長獣准尉高橋孝太郎)設置。</p>																																								
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>総務科</td> <td>長獣少佐</td> <td>下</td> <td>春夫</td> </tr> <tr> <td>研究科</td> <td>(兼務)</td> <td>下</td> <td>春夫</td> </tr> <tr> <td>調弁科</td> <td>長主中尉</td> <td>中谷</td> <td>正三</td> </tr> <tr> <td>製造科</td> <td>長獣大尉</td> <td>伊東</td> <td>多久美</td> </tr> <tr> <td>補給科</td> <td>長獣中尉</td> <td>松尾</td> <td>小太郎</td> </tr> <tr> <td>警備中隊</td> <td>長獣大尉</td> <td>石川</td> <td>喜藏</td> </tr> <tr> <td>大連支廠</td> <td>長獣大尉</td> <td>森田</td> <td>一郎</td> </tr> <tr> <td>大石橋支廠</td> <td>長獣大尉</td> <td>加藤</td> <td>孝太郎</td> </tr> <tr> <td>下九合出張所</td> <td>(兼務)</td> <td>松尾</td> <td>小太郎</td> </tr> </table>					総務科	長獣少佐	下	春夫	研究科	(兼務)	下	春夫	調弁科	長主中尉	中谷	正三	製造科	長獣大尉	伊東	多久美	補給科	長獣中尉	松尾	小太郎	警備中隊	長獣大尉	石川	喜藏	大連支廠	長獣大尉	森田	一郎	大石橋支廠	長獣大尉	加藤	孝太郎	下九合出張所	(兼務)	松尾	小太郎
総務科	長獣少佐	下	春夫																																					
研究科	(兼務)	下	春夫																																					
調弁科	長主中尉	中谷	正三																																					
製造科	長獣大尉	伊東	多久美																																					
補給科	長獣中尉	松尾	小太郎																																					
警備中隊	長獣大尉	石川	喜藏																																					
大連支廠	長獣大尉	森田	一郎																																					
大石橋支廠	長獣大尉	加藤	孝太郎																																					
下九合出張所	(兼務)	松尾	小太郎																																					
摘要																																								

0803

0803

8

15

停戦。

停戦後の部隊行動次のとおり。

一主力は八月十九日軍属を解散。八月二十五日奉天において武装解除。九月三日北陵東北大学に收容された後九月十六日以降逐次黒河經由入「ソ」。

一大連支廠は八月二十二日同地において武装解除された後解散。

一六石橋支廠は八月二十八日同地において武装解除され九月三日海城に移動した。後十一月黒河經由入「ソ」。

一「下九台および開原出張所は八月末主力に合流。

部隊長

獣医中佐 加藤 観 一

0804

昭 20		年		月		日	
9	9	8	8	8	7	7	
26	24	25	15	9	30	10	
第一三四師団司令部略歴							
通称号 濶第六六七部隊 勾玉第二五二六三部隊							
略 歴							
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 三江省樺川県佳木斯において編成完結。 独立混成第七八旅団司令部と富錦駐屯隊司令部（佳木斯師団司令部と仮称）を 改編。 同日より同地付近において警備 主力は改編前より方正県において陣地構築（校演習と呼称） 日「ソ」開戦により師団全員に方正集結を命令各部はそれぞれ駐屯地出発。 方正県方正に集結。 方正において武装解除。 主力は佳木斯斉藤作業大隊（少佐斉藤一郎）に編入。 佳木斯出発（船により松花江下る） 入「ソ」。</p>							
師団長 中将 井 関 扱							
摘 要							

0805

					昭 20	年 月 日	略 歴	通称号 満第八五三部隊 勾玉第二五二六四部隊	歩兵第三六五連隊略歴
8	9	8	8	8	7				
18	15	25	13	9	30	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 三江省樺川県佳木斯において編成完結。 独立歩兵第五七三大隊 五七六大隊 五七七大隊 を合併し (佳木斯師団歩兵連隊と仮称) 改編 主力は方正県草皮溝において陣地構築 (桜演習と呼称) 佳木斯残留隊は同地の警備 日「ソ」開戦により、各駐屯地を出発。 主力は方正に集結。 主力は方正において武装解除。 佳木斯着。 一部は依蘭県依蘭において武装解除。		
							摘要		

0806

	9	9	8
	19	17	30
<p>連隊長 中佐 岩田勝清</p>	<p>入「ソ」。</p>	<p>下る）。</p>	<p>佳木斯着。 主力は佳木斯阿部作業大隊（大尉阿部三郎）に編入佳木斯出発（船により松江</p>

0807

					昭 20		年 月 日	略 歴
9	8	8	8	8	7	7		
28	14	20	15	9	30	10		
<p>通称号 満第七二八部隊 勾玉第二五二六五部隊</p> <p>歩兵第三六六連隊略歴</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 三江省樺川県佳木斯において編成完結。 独立歩兵第五七四大隊 第一四国境守備隊歩兵隊 } を合併し (佳木斯師団歩兵隊と仮称) 改編。 主力は方正県大平山一部は鶴立県鶴岡において陣地構築 (桜演習と呼称) 佳木斯残留隊は同地の警備 日「ソ」開戦により各駐屯地出発。 主力は方正県方正に集結。 方正において武装解除。 一部は鶴岡出発して方正に向う。 南又において武装解除。 主力は佳木斯馬場作業大隊(中尉馬場義信)に編入。</p>								
							摘 要	

0808

	9	9
	3	1
<p>連隊長 中佐 石山 年 秀</p>	<p>入「ソ」。</p>	<p>佳木斯出發（船により松花江下る）</p>

0809

			昭		年 月 日	略 歴	通称号 満第二九一部隊 勾玉第二五二六六連隊
			7	7			
8	8	8	7	7			
12	20	9	30	10			
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 三江省樺川県佳木斯において編成完結。 独立歩兵第二六六大隊 独立歩兵第二六七大隊 独立歩兵第二六八大隊 を合併し（佳木斯師団歩兵隊と仮称）改編。 主力は依蘭県大羅勒密付近および方正県方正付近において陣地構築。 （桜演習と呼称） 一部は富錦、撫遠より中央鎮に至る黒龍江沿岸に各監視隊配置。 佳木斯残留隊は同地の警備。 日ソ開戦により各駐屯地出発方正に向う。 富錦に駐屯した部隊は途中「ソ」軍の攻撃をうけ主力は牡丹江着「ヤプロニ」に到着。 主力は方正に集結。 各監視隊は各駐屯地出発、途中「ソ」軍の攻撃をうけ。</p>							
						摘要	

歩兵第三六七連隊略歴

0810

	10	10	9	9	9	9	8	8
	8	1	20	13	11	5	20	18
連隊長 大佐 東野 謹 三	緩芬河經由入「ソ」。	海林出發。	「ヤブロニー」で武装解除をうけたものは海林第一四七作業大隊（中尉高橋安治）に編入。	入「ソ」。	佳木斯出發（船により松花江下る）。	佳木斯大家作業大隊等（中尉 大家賢）に編入。	主力は方正において武装解除。	その主力は方正に集結。 一部は「ヤブロニー」に到着。

0811

至自		昭 20	年 月 日	略 歴	摘要						
9 中旬	9 14	9 30	9 4			8 14	9 9	9 7	8 25	8 12	7 30
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。</p> <p>三江省樺川県佳木斯において編成完結。</p> <p>富錦駐屯隊および独立混成第七八旅団を基幹として編成。</p> <p>同地付近の警備および陣地構築。</p> <p>一部先発隊として佳木斯出發。</p> <p>依蘭において武装解除。</p> <p>佳木斯北林作業隊（大尉北村実治）に編入。</p> <p>佳木斯出發（船により松花江下る）</p> <p>入「ソ」。</p> <p>主力は各中隊毎に佳木斯を出發し途中「ソ」軍と遭遇して更に小行動群に分散して敦化、吉林、上金馬、五常等に向つて行動した。</p> <p>各地の部隊に合流武装解除。</p> <p>主力は佳木斯石崎作業大尉（大尉石崎進）に編入。</p> <p>佳木斯出發入「ソ」（船により松花江下る）。</p>											

第一三四師団挺進大隊略歴

通称号 勾玉第二五二六七部隊 鋭第一三〇八二部隊

0812

				昭 20		年 月 日	野砲兵第一三四連隊略歴 通称号 満第八二四部隊 勾玉第二五二六九部隊
8	8	8	8	7	7		
25	23	20	13	30	10	略	略
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 三江省樺川県佳木斯において編成完結。 富錦駐屯砲兵隊 独立混成第七八旅団砲兵隊 } を合併し (佳木斯師団砲兵隊と仮称) 改編。 主力は依蘭県大羅勒密において陣地構築 (桜演隊と呼称) 佳木斯残留隊は同地の警備。 主力は大羅勒密出発。 同日方正着、同時に佳木斯残留隊を同地において掌握。 方正南方四軒守義屯において武装解除。 主力は佳木斯渡辺作業大隊(少佐渡辺俊三)に編入。 同日佳木斯出発(船により松花江下る)。 入「ソ」。</p>							略
							摘要

0814

連隊長

大佐
石山
虎夫

0815

		昭 20	年		
		7	月		
		7	日		
8		7			
10		30			
<p>主力は各駐屯地出發、依蘭に到着。</p> <p>佳木斯殘留隊は同地付近の警備。</p> <p>器小・・・大羅留密障地構築</p> <p>三中・・・草坡溝障地構築</p> <p>二中・・・大平山障地構築</p> <p>一部は大羅留密障地構築</p> <p>一中・・・佳木斯駐屯地警備</p> <p>本部・・・小羅留密障地構築</p> <p>(校演習と呼称)</p> <p>主力は次のとおり方正県各地において障地構築。</p> <p>旅団工兵隊を合併し(佳木斯師団工兵連隊と仮称)改編。</p> <p>富錦駐屯工兵隊と独立混成第七八</p> <p>三江省樺川県佳木斯において編成完結。</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。</p>		略	工兵第一三四連隊略歴		
			歴	通称号 溝第七三三部隊 勾玉第二五二七〇部隊	
			摘要		

0816

	9	9	8	8	8	8
	11	1	30	25	18	17
<p>花江下る）。</p> <p>佳木斯杉山作業大隊（中尉杉山実三）に編入佳木斯出發入「ソ」〔船により松</p> <p>佳木斯着。</p> <p>伊漢通出發。</p> <p>伊漢通において武装解除。</p> <p>伊漢通着。</p> <p>依蘭出發。</p>						
<p>逃隊長</p> <p>小佐村田実行</p>						

0817

						昭和20年		第一三四師団通信隊略歴 通称号 滿第九一部隊 溝第四四五部隊 勾玉第二五二七部隊	
						7	7		略歴
						30	10		
9	8	8	8	8				<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 三江省樺川県佳木斯において編成完結。 独立混成第七八旅団通信隊（佳木斯師団通信隊と仮称）を改編。 同日より同地附近の警備。 主力は方正県東北地区 一部は通河県東北地区 （桜演習と呼称） において陣地構築 開戦とともに各駐屯地を出発。 方正において停戦。 方正において武装解除。 主力は佳木斯平野内作業大隊（大尉平野内為輔）に編入。同日佳木斯出發（船により松花江下る）。 入「ソ」。</p>	
1	30	24	15	9					隊長 大尉 石 森 善 教
								摘要	

0818

										昭和20年		輜重兵第一三四連隊略歴 通称号 満第九七三部隊 勾玉第二五二七二部隊	
										7	7		略歴
9	8	10	8	8	8	8	8	8	8	30	10		
3	25	23	30	17	16	10	9					軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 三江省樺川県佳木斯において編成完結。 独立混成第七八旅団輜重隊（佳木斯師団輜重隊と仮称）を改編。 同日より同地付近の警備。 主力は三江省旅蘭県大羅勒密付近において陣地構築（桜演習と呼称）。 一部は通河において警備。 佳木斯残留隊は同地出発、同日大羅勒密着。 主力は各駐屯地出発。 方正に集結。 一部は哈爾濱着、八月二十二日同地において武装解除し、 海林第一四〇作業大隊に編入 海林出発、同日綏芬河經由入「ソ」。 主力は方正において武装解除。 方正出発佳木斯着。	

0819

	9	9	9
	18	15	15
連隊長 少佐 森 本 国 治	入「ソ」。	佳木斯出發（船により松花江下る）。	同地森本作業大隊（少佐森本国治）編入。

0820

										昭	年	第一三四師団兵器勤務隊略歴 通称号 勾玉第二五二七三部隊
										20	月	
9	9	9	9	8	8	8				7	日	
12	10	4	3	20	13	9				30	10	略歴
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 三江省樺川県佳木斯において編成完結。 独立混成第七八旅団兵器修理班 (佳木斯師団兵器修理班と仮称)を改編。 主力は方正県方正付近において陣地構築。 (桜演習と呼称) 佳木斯残留隊は同地の警備。 日ソ開戦とともに各駐屯地出発。 主力は方正着。 方正において武装解除。 佳木斯着。 佳木斯橋本作業大隊(大尉橋本卯作)に編入。 佳木斯出発(船により松花江を下る)。 入「ソ」。</p>												
												摘要

0821

	10	8
	23	18
<p>隊長 大尉 太田今朝治</p>	<p>海林第一四〇作業大隊（中尉山田弘）に編入。 綾芬河経由入「ソ」。</p>	

0822

		昭和						
		20	20					
		7	7					
		9	9	8	8	8	8	
		13	11	10	20	19	12	
		30	10					
		年		月		日		
		第一三四師団病馬廠略歴						
		通称号 勾玉第二五二七七部隊						
		略						
		歴						
		摘要						
		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 三江省樺川県佳木斯において編成完結。 (佳木斯師団病馬廠と仮称)を改編。 同地において整備。 佳木斯出發。 主力は方正着。 方正において武装解除。 佳木斯杉山作業大隊(中尉 杉山実三)に編入。 佳木斯出發(船により松花江下る)。 入「ソ」。</p> <p style="text-align: right;">廠長 獣医中尉 塚田 晴夫</p>						

0823

					昭	年 月 日	略 歴	
					20			
8	8	8			8			7
14	13	11			9	10		
<p>市の一部は空爆を受け、主力は牡丹江市内聖林小学校に移駐。 敦化に移駐のため、牡丹江出發。 寧安付近において空爆を受け、戦傷者を出した。</p>					<p>編成 軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 牡丹江において、第一〇三警備司令部を主体として編成中日ソ開戦となる。</p>			
							摘要	

関東軍第三特別警備隊司令部略歴(その一)
 通称号 鋭第三七四〇四部隊

0824

		10	10	9	8	8
		25	12	2	19	17
		<p>北湖頭において停戦。</p> <p>敦化に到着。</p> <p>同地において武装解除。</p> <p>下士官、兵は沙河沿において第二五作業大隊に編入。満洲里經由入「ソ」。</p> <p>将校は、敦化县立病院に禁足収容された後ウオロシロク刑務所に入所。</p> <p>タイセット地区第一収容所に入所。</p> <p>司令官 大佐 今井 龜 次 郎</p>				

0825

至自						昭	年 月 日	関東軍第二特別警備隊第一大隊略歴(その二) 通称号 鋭第三七四〇四部隊
10	10	9	8	8	8	7		
25	12	2	22	21	9	10		
軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 教化において第六〇兵站警備隊を主体として編成中、日ソ開戦となる。 編成 大隊本部 保安中隊・・・二 遊撃中隊・・・一 通信小隊・・・一 輸送小隊・・・一 戦闘をすることなく、教化付近の警備。 同地において武装を解除。 下士官、兵の主力は同地の第二五五作業大隊に編入。満洲里經由入「ソ」。 将校は、教化県立病院に監禁せられた後ウオロシロフ刑務所に入所。 タイセット地区第一分所に入所。 大隊長 少佐 寿村 通夫								
							略	歴
							摘要	

0826

至 自		昭	年 月 日	略 歴	摘 要		
8	8	8				7	通称号 鋭三七四〇四部隊 関東軍第二特別警備隊第二大隊略歴（その三）
30	17	16				10	
間島において第三三作業大隊に編入。 同地において武装を解除。 部隊主力は、間島付近の警備。		軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 間島省において第八〇兵站警備隊（二中队）を主体に、憲兵・特務機関を加えて編成中編成未完了のまま、日ソ開戦となった。					
輸送小隊 } 未完了 通信中队 } 遊撃中队 } 行 李 班 一 保 安 中 隊 二 大 隊 本 部							

0827

		10 9
		25 3
	大隊長 少佐 喜岡安直	同地出發、クワスキー（作業大隊改編後）經由入「ソ」。 コムソモリスク地区収容所に入所。

4500

0828

関東軍第二特別警備隊第三大隊略歴（その四）

通称号 鋭第三七四〇四部隊

至自		昭	年
9	8	8	7
1	18	9	10
		略	
		歴	
		摘要	

軍令陸甲第一〇六号により編成下令。
 牡丹江において第六〇兵站警備隊（三中隊、一小隊）に憲兵および特務機関を加え編成中、日ソ開戦となる。
 編成

- 大隊本部
- 保安中隊・・・・・・二
- 遊撃中隊・・・・・・一
- 情報中隊・・・・・・一
- 通信小隊・・・・・・一
- 輸送小隊・・・・・・一

牡丹江周辺および海林に、中隊ごとに配備。
 以降、各中隊ごとに横道河子方面に行動し、海林付近（空襲を受けた）、横道河子付近（砲撃を受けた）各地で損害をいだし、分散行動となった。
 部隊主力は、横道河子において武装を解除し、その後拉古に移動した。
 拉古において第五作業大隊を編成した。

0829

		10	9 9
			24 10
			<p>拉古出発、グロデゴ一經由入「ソ」。</p> <p>セミヨノフカ地区の収容所に入所。</p> <p>スイソエフカ収容所から牡丹江（病院）に、患者約五〇名の逆送者があった。</p>
			<p>部隊長</p> <p>大佐 原田 邦一</p>

0830

昭和		年	月	日	略	歴	摘要
20	7						
9	10						
9	8	8	8	8	8	8	8
3	31	29	24	16	10	9	10
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 東安において第八〇兵站警備隊（二中隊）を主体とし、憲兵・特務機関各要員を加えて編成中日ノ開戦となった。 編成 大隊本部 情報中隊・・・二 部隊は数行動群に分かれて、牡丹江方面に向かい行動中情況により予定を変更して横道河子方面に向かった。 一部は横道河子において武装を解除。 主力は、横道河子付近において分散行動となった。 冷山付近においてさらに分散。 主力は、第二ロマノフカ村（横道河子の西南方）において武装を解除。 海林において作業第一四二大隊に編入。</p>							

関東軍第二特別警備隊第四大隊略歴（その五）

通称号 鋭第三七四〇四部隊

略

歴

摘要

0831

		10 9
		29 15
	大隊長 中佐 市来 正明	海林出発、綏芬河經由入ソ。 ライチハ地区一分所に入所。

0832

昭		年	月	日	略	歴	摘要
至	自						
8	8	8	7				
25	21	16	9				
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 佳木斯において第八〇兵站警備隊（二ヶ中隊、一ヶ小隊）を主体とし、憲兵・特務機関等の要員を加えて編成中、未完結のまま日ソ開戦となった。 編成 大隊本部 歩兵中隊。．．．一 歩兵小隊。．．．一 佳木斯から数行動群に分れて、松花江に沿って南下し、依蘭方面に向かい行動した。 部隊の主力は、船により松花江を南下し、方正着。 方正において武装解除後、佳木斯に移動。 佳木斯において橋本作業大隊（長、大尉 橋本卯作）および北村作業大隊（長、大尉 北村実治）に編入。</p>							

関東軍第二特別警備隊第五大隊略歴（その六）

通称号 鋭第三七四〇四部隊

略

歴

摘要

0833

		10 9
		1 7
	大隊長 中佐 河西太郎	松花江を船で下り入ソ。 ハバロスク地区収容所に入所。

0834

昭		自		至		年	月	日
20	1	2	5	6	8			
16	20	初	中	下	9	23	8	20
<p>第一二四師団司令部略歴</p> <p>通称号 満第六九二部隊 遠謀第一五二三一部隊</p> <p>略 歴</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令。</p> <p>牡丹江省綏陽県綏陽において第一一師団、第八師団の残置者を基幹としその他在満各部隊よりの転属者等をもって編成完結。</p> <p>牡丹江省穆稜県穆稜付近に陣地構築を開始。</p> <p>主力は穆稜に移駐、陣地構築の指導並に司令部業務の実施。</p> <p>綏陽には一部の人員が残務整理に従事。</p> <p>日「ソ」開戦。</p> <p>1 穆稜主力は陣地西北方約一〇軒地点に戦闘司令部開設八月十二月より十九日まで隷下部隊の指揮並に情報蒐集を実施。</p> <p>2 綏陽残留隊は主力に追及のため穆稜に向う。途中山中にて「ソ」軍の空襲をうけ若干の戦死傷者行方不明者をだしたが大部は主力に追及。</p> <p>軍命令により、代馬溝より牡丹江方面に転進。</p> <p>寧安南方付近において武装解除。</p>								
								摘要

0835

	8
	26
<p>師団長 中将 椎名正健</p>	<p>東京城編成第二七〇、第二七二、第二七三、作業大隊および将校大隊に編入。</p>

0836

昭 20	年	至自	
1	月	8	8
16	日	17	20
<p>通称号 満第七六四部隊 遠謀第一三〇五一部隊 遠謀第一五二二二部隊</p> <p>略 歴</p>			
<p>歩兵第二七一一連隊略歴</p>			
<p>軍令陸甲第九号により編成下令。</p> <p>牡丹江省綏陽県綏陽において第一一師団第八師団の転用に伴う残置人員および在満各部隊の転属者を基幹として編成完結。</p> <p>陣地構築のため綏陽より穆稜に移駐。</p> <p>一部綏陽に残留、第三大隊は綏芬河に駐留。同地において陣地構築。</p> <p>開戦。</p> <p>穆稜陣地において、優勢な「ソ」軍と交戦し多大の損害を生じた。</p> <p>綏芬河駐留の第三大隊は付近の天長山陣地において「ソ」軍戦車の急襲をうけ少数の脱出者の他は殆んど全員玉碎した。</p> <p>停戦により教化に集結のため行動開始。</p> <p>以後武装解除まで絶えず攻撃を受く。</p> <p>鹿道、教化、大石頭、明日溝、東京城の各地で武装解除。</p> <p>八達溝、蘭崗、東京城、教化の各作業大隊に編入「ソ」。</p> <p>連隊長 大佐 安土 武比古</p>			
<p>摘要</p>			

0837

至自	至自	至自	昭	年 月 日	歩兵第二七二連隊 略歴	
9 8	8 8 8	6 5	2 1			略
10 16	14 11 9	10 4	20 16			
<p>連隊長 大佐 石川 栄 治</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令。 牡丹江省綏陽県綏南において、国境守備隊の転属者、第一一師団、第八師団の転用に伴う残置者その他在満各部隊の転属者をもつて編成完結。 綏南出發、穆稜に移駐。 穆稜着、綏南には一部残留。 同地において陣地構築。 開戦。 穆稜南方高地および穆稜市街、緑山陣地、小豆山において戦闘し若干の損害を受け牡丹江街道の戦闘では損害大であった。 牡丹江―東京城―敦化および汪清の沿線において武装解除され入「ソ」</p>					略	
					摘要	

0838

昭 20	年 月 日	自 至	略 歴	摘 要
1	2	8 8	軍令陸甲第九号により編成下令。 牡丹江省綏陽縣綏西において、第一一二師団の転用に伴う残置人員および在満各部隊の転属者を基幹として編成完結。 一部を綏西に残置し、本部第一大隊、第二大隊は穆稜に移駐。 同地において、陣地構築。	
16	20	初	第三大隊は老菜營に駐留していたが綏芬河北方観月台陣地において、第一一國境守備隊の既設諸陣地を引継ぎ、同守備隊砲兵隊の二八糧糧彈砲(⊙部隊)とともに国境監視陣地補強作業に従事。 開戦と同時に「ソ」軍の猛攻撃に会い穆稜陣地、観月台陣地はいづれも多大の損害をうけた。 第三大隊の観月台陣地は、半数以上の戦死者をだし少数の脱出者以外は生死不明になった。 第七中隊は、小豆山付近において「ソ」軍戦車の急襲を受け三名のみを残し全員戦死。	
		22 9		

歩兵第二七三連隊略歴

通称号

満第二七三部隊
遠謀第一三〇五三部隊

遠謀第一五二二四部隊

略

歴

摘
要

0839

	9	8
	12	28
連隊長 大佐 瀬尾 浩	東京城―掖河を経て入「ソ」。	敦化より代馬溝を経て寧安着。 寧安より東京城作業第二七一大隊を編成。

0840

		昭 20		年 月 日		略 歴	摘 要
		8	8	7	7		
		29	23	30	10	隊長 大尉 川 勝 忠 三	

0841

										昭	年	月	日	野砲兵第一一六連隊略歴
										20				
8	8	8	8	7	7	7	6	2	1					
13	12	10	9	30	10	2	30	20	16					
<p>通称号 満第一〇二部隊 遠謀第一三〇五四部隊 遠謀第一五二二五部隊</p> <p>略 歴</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令。 牡丹江省綏陽県綏西において、在満国境守備隊その他各部隊よりの転属者、第八師団の残置者と基幹として第一二四師団砲兵隊として編成完結。 第一一國境守備隊、第二國境守備隊の改編に伴う編入により第一二四師団砲兵連隊となる。 陣地構築のため主力は移稜に移動を開始。 残留隊を除き主力は移稜に移駐完了。 軍令陸甲第一〇六号により編成改正下令。 野砲兵第一一六連隊の編成完結。 開戦と同時に、綏西の残留隊は全員移稜陣地に出発。 移稜陣地到着。 牡丹江重砲連隊長の指揮下に入り対砲兵戦対戦車戦闘援護射撃等に任ず。 小豆山に集結命令。 小豆山に集結「ソ」軍と交換し損害甚大。</p>														
摘要														

0842

至自

9 8 8

5 17 14

主力は敦化方面に向い磨力石、代馬灣を経て東京城付近において武装解除。
東京城第二七三作業大隊に編入綏芬河經由入「ソ」。

連隊長

中佐 中 園 義 熊

0843

至自		昭	
		20	
8 8 8		2 1	
15 13 12		20 6	
		年 月 日	
<p>綏陽残留隊は開戦と同時に穆稜の本隊に追及すべく綏陽を出発、付近において、</p> <p>者多数生じた。</p> <p>小豆山付近に前進し十四日より優勢な「ソ」軍と激戦を展開し戦死、生存不明</p> <p>第一線部隊の戦闘はげしく作業を中止。</p> <p>同地において陣地作業、道路構築作業を続行。</p> <p>山に到着。</p> <p>独立工兵第一二連隊、伊林残留隊は第一二四師団工兵隊長の指揮下に入り、一団</p> <p>穆稜県一國山に集結。</p> <p>開戦。</p> <p>同地において道路構築、陣地構築作業。</p> <p>一部人員を綏陽に残置し、主力は穆稜県穆稜に移駐。</p> <p>の転属者等をもつて編成完結。</p> <p>牡丹江省綏陽において、第一一師団工兵隊の残置人員を基幹とし國境守備隊</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令。</p>		<p>第一二四師団工兵隊略歴</p> <p>通称号 満第六三三部隊</p> <p>遠謀第一三〇五六部隊 遠謀第一五二二六部隊</p> <p>略 歴</p>	
		摘要	

0844

至自

9 8

3 18

「ソ」軍の急襲をうけ戦死、生存不明者多発。生存者は穆稜陣地に到着。
主力は横道河子および東京域において武装解除。海林、東京域編成の作業大隊
に編入「ソ」。

隊長

少佐 内田 龜夫

0845

昭和20年							年 月 日	略 歴	摘要
9	8	8	8	6	2	1			
9	23	15	9		20	16			
<p>隊長 大尉 吉沢 益雄</p> <p>東京城第二七〇作業大隊に編入綏芬河を経て入「ソ」。</p> <p>寧安において武装解除。</p> <p>牡丹江方面に行動。</p> <p>少数の分隊は師団の歩兵隊に配属され、歩兵部隊と同行動。</p> <p>開戦と同時に一国山に集結各部隊内の連絡通信に従事。</p> <p>綏陽の残置人員も主力に追及し合流。</p> <p>穆稜において陣地構築。</p> <p>一部を綏陽に残置、主力は穆稜に移動。</p> <p>牡丹江省綏陽県綏陽において、第一一師団第八師団の転用に伴う残置人員および在滿各部隊の転属者を基幹として編成完結。</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令。</p>							<p>通称号 満第七四六部隊 遠謀第一三〇五七部隊 遠謀第一五二二七部隊</p>	<p>第一二四師団通信隊略歴</p>	

0846

至 自											昭	年 月 日	略 歴
8	8	8	8	8	8	8	8	6	2	1	20		
末	24	21	15	13	12	10	9	24	20	6			
<p>隊長 少佐 中島正彦</p> <p>主力は各武装解除地において作業大隊に編入し九月初綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>寧安 東京城 敦化 において武装解除</p> <p>牡丹江出発。</p> <p>掖河より牡丹江に後退。</p> <p>「ソ」軍戦車の攻撃により各中隊は連絡不能となり分離。</p> <p>綏西残留隊も全員到着、主力に合流す。</p> <p>開戦と同時に穆稜出發代馬溝陣地に移動、各部隊への補給業務に任ず。</p> <p>同地において陣地構築ならびに資材の輸送作業。</p> <p>一部人員を綏西に残置し主力は穆稜県穆稜に移駐。</p>											軍令陸甲第九号により編成下令。	牡丹江省綏陽県綏西において第一一師団輜重隊および第九師団輜重隊の残置人員を基幹とし、その他在滿各部隊の転属者の編入をもつて、編成完結。	
											摘要		

第一二四師団輜重隊略歴

通称号

滿第五六部隊
遠謀第一三〇五八部隊

遠謀第一五二二八部隊

0847